

まかはんにゃはらみつたしんぎょう
摩訶般若波羅蜜多心經

観音菩薩が奥深い真理を悟る修行を実践していた時、ある
真実に辿り着いた。

私たちが存在する五つの構成要素は、皆、固有の本性・実体
を持たない「空」である。

そして、観音菩薩はあらゆる苦しみと災いから解放された。

舍利子(シャーリプトラ)よ、形あるものは、実体が無く、実
体がないからこそ形あるものとして存在する。

形あるものは実体無きものであり、実体無きものは形ある
ものなのである。

そして、我々が何かを感じたり、欲したり、様々な心の動き
も同じく空なのである。

舍利子(シャーリプトラ)よ、この世のあらゆる存在は空とし
ているから、生じることも滅することもなく、汚れることも清
まることもなく、増えることも減ることもない。だからこそ、
全てが空であり、形あるものは存在しない。

視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚、心といったものも存在しない。これらの感覚が存在しないということは、これらを受け取ることによる意識や思考も存在しない。

眼から見て感じることも無く、迷うことも迷いがなくなることも無い。また、老いて死ぬことも無ければ、老いて死ぬことが無くなることも無い。苦しみも、苦しみの原因となる迷いも消え去ることもないし、その方法もない。そして知ることでも得ることもない。

得るところのものが何もないからこそ、菩薩は物事の本質に依るため、心には妨げるものがなく、心に妨げるものがないからこそ、恐怖があることもない。

誤った考え方を超越して、涅槃を究めるのである。

過去・現在・未来の仏様も、智慧の完成に依るからこそ、無上なる完全なさとりを得るのである。

だからこそ知るべきである。

般若波羅蜜多とは、大いなる真言であり、大いなるさとりの智慧の真言であり、この上ない真言であり、比べるものがないほど素晴らしい真言なのである。

よく一切の苦悩を除き、それは実在であり、虚ろなものではないのである。

だからこそ、般若波羅蜜多を讃える真言を、ここで説こう。

往ける者よ、往ける者よ、彼岸に往ける者よ、さとりよ、幸いあれ。

偉大なる智慧の完成についての心髓の経